



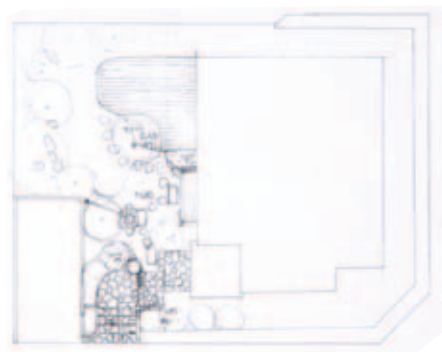
Lesson 3



洋+和を上手にミックスするには 和の素材を洋風に使う

K様邸

ファサードのアプローチや門は洋風、門を入れて庭の途中までは和風、奥のデッキは洋風、という和洋混合の庭です。こういう場合、和の素材を洋風に、洋の素材を和風に使うなどひと工夫すると、意外にすんなりと調和するものです。たとえば丹波石を、門柱にはレンガのように小口積みし、アプローチの床は平張りにして洋風に。塀の壁はしっくい風に白く仕上げても和の雰囲気にも合うように。また植木は、和にも洋にも合うやさしい表情の雑木（アオハダ、アメリカハナミズキなど）を選んでいきます。



門を入ると和の庭、さらに奥に行くと木製のデッキがあります。飛び石も砂利の床もライトな色調で、和洋どちらにも合うようにデザインされています。

奥のデッキから門の方を見たところ。全体に明るいベージュ系に統一され、和も洋も違和感がありません。手前の木はアメリカハナミズキ。



玄関わきの花壇には、和にも洋にも合うように、株立ちの雑木を。枝越しの景色も美しく、庭に奥行きを感じさせてくれます。

和に使われることの多い丹波石を、床には平張りに、門柱には小口積みにして洋風に。塀は和にも合うようにしっくい風に仕上げています。



Lesson 4



ディテールで遊び 斬新な和の庭を演出する

和の庭をつくるとき、私はしばしば外国のアンティークな小物などをみつけてきては、「つくばい」として使用しています。それが一種のスパイスとなって、わびさびの庭をイキキと引き立ててくれる場合があるからです。

和の庭には和風のつくばいや灯籠でなくては…と決めつけしないで、もっと小物やディテールで遊んでみてはいかがでしょうか。和と洋の雰囲気や自然につなげ、両方を美しく融合させてくれる、そんな斬新な小物を選びたいものです。



フランス製のしっくい塗りの手水鉢に、大正時代の陶磁器を乗せてつくったアンティークなつくばい。アールデコ風の照明も相まって、レトロでおしゃれな和の庭が完成。(K様邸)



豆腐屋さんが使っていたアンティークの挽き臼を使用し、まわりに伊勢ゴロの砂利を敷いて、無国籍風にまとめたつくばい。洋風の建物やラティスのフェンスともさりげなく調和しています。(S様邸)